

鬼の話

求菩提山にはいろいろな鬼の話が伝わっています。

鬼神社

求菩提山の国玉神社中宮横にある神社です。その昔、犬ヶ岳には凶暴な8匹の鬼がすんでおり、色々な悪いことをしていました。それをもうかくまぼくせん たいじ 猛覚魔ト仙が退治し、犬ヶ岳に埋めたといわれています。その鬼の魂を祀っています。



鬼の石段

中宮から上宮へ通じる約850段の石段は「鬼の石段」と呼ばれていて、次のような話が伝わっています。

昔、求菩提山には鬼たちが住んでいて、毎晩村に出てきては悪さをしていました。村人たちはたいそう困り、求菩提の権現様になんとかしてくれるようお願いをしたそうです。そこで権現様は鬼たちを呼び集めました。

「わしの住む社を、この求菩提の山頂につくりたい。そのために1000段の石段を朝一番どりが鳴くまでに築いてもらいたい。もしもできあがらなかったら、この山から出て行ってもらおう。」

山を追い出されたくない鬼たちは日が暮れると早速石段づくりに取りかかりました。鬼たちは一生懸命、石を拾ってきては積み重ね、夜の明けないうちに石段ができあがりそうになりました。それを見た権現様は「これは大変だ」とあわて、手に持ったタコロンパチ（竹のかわの笠）をたたき、鶏の羽ばたきと鳴き声をまねしました。これを聞いた鬼たちは、もう夜が明けるものと思い、あわててこの山から逃げていきました。こうして鬼はいなくなり、村人たちは権現様にお礼を言い、平和に暮らしたそうです。



求菩提山にはほかにも「鬼の手形のついた岩」など、鬼の話がたくさん伝わっているよ。



「じろう」

鬼といえば「神楽」だけど、山伏たちは豊前の神楽に大きな影響を与えたよ。

